資治通鑑 第162巻

【梁紀十八】　屠維大荒落，一年。

■梁、●西魏、東魏東魏、続国訳漢文大成 経子史部 第9巻 223p

高祖武皇帝十八太清三年（己巳，５４９年）

■［柳仲禮の攻撃失敗］**春，正月**，丁巳（53-53+1=１日）朔，**柳仲禮**は新亭より徙りて大桁に營す。會々大いに霧いで，**韋粲**の軍は迷いて道を失い，青塘に及ぶ比おい，夜は已に半ばを過ぎ，柵を立てて未だ合わざるに，**侯景**は之を望見し，亟かに鋭卒を帥いて**粲**を攻める。**粲**は軍主の**鄭逸**をして之を逆撃せ使め，**劉叔胤**に命じて舟師を以て其の後を截たしめ（秦淮河を渡るを阻止），**叔胤**は畏懦にして敢えて進まず，**逸**は遂に敗れる。**景**は勝ちに乗りて**粲**の營に入り，左右は**粲**を牽きて賊を避けしめ，**粲**は動かず，子弟を叱して力戦し，遂に子の**尼**及び三弟の**助**、**警**、**構**、従弟の**昂**と皆な戦死し，親戚の死する者は數百人なり。**仲禮**は方に食し，箸を投げて甲を被り，其の麾下百騎と馳せて往きて之を救い，**景**と青塘に於いて戦い，大いに之を破り，斬首は數百級，淮水に沉みて死する者は千餘人なり。**仲禮**の槊は將に**景**に及ばんとし，而るに賊將の**支伯仁**（支化仁に作るべし）は（9-224p）後より**仲禮**を斫り肩に中たり，馬は淖（どろ）に陷ち，賊は槊を聚めて之を刺し，騎將の**郭山石**は之を救い，免かるるを得る。**仲禮**は重瘡を被り，會稽人の**惠琇**は瘡を吮（す）いて血を斷ち，故に死せざるを得たり。是より**景**は敢えて復た南岸に濟らず，**仲禮**も亦た氣衰（続は索）え，復た戦わず矣。邵陵王の**綸**（前巻前年に敗走）は復た散卒を収め，東揚州刺史の臨城公の**大連**、新淦公の**大成**等と東道より並びて至る。庚申（56-53+1=４日），營を桁南に列ね，亦た**柳仲禮**を推して大都督と為す。**大連**は，**大臨**之弟也。

■［朱異は慚憤して死す］朝野は**侯景**之禍を以て共に**朱異**を尤（とが）め，**異**は慚憤して疾を發して，庚申（56-53+1=４日），卒す。故事に，尚書官は以て贈と為さず。**上**は**異**を痛惜し，特に尚書右僕射を贈る。甲子（60-53+1=８日），湘東の世子の**方等**及び**王僧辯**の軍は至る。

■東魏戊辰（4+60-53+=１２日），封山侯の**正表**は北徐州を以て東魏に降る，東魏の徐州刺史の**高歸彦**は兵を遣わして之に赴く。**歸彦**は，**歡**之族弟也。

■［援軍四集を建康に知らせる］己巳（5+60-53+1-１３日），**太子**は遷りて永福省（禁中にあり、宋以来太子は居る）に居る。高州（五代志に高涼郡に涼は置く）刺史の**李遷仕**、天門太守の**樊文皎**は援兵萬餘人を將いて城下に至る。台城は援軍と信命は久しく絶え，**羊車兒**有りて獻策し，紙鴟（紙の鳶、凧か）を作り，系ぐに長繩を以てし，敕を內に寫し，放ちて以て風に從わしめ，衆軍に達するを冀い，題して云わく、

「鴟を得て援軍に送れば，銀百兩を賞せん。」

太子は自ら太極殿の前に出でて西北の風に乗せて之を縱ち，賊は之を怪しみ，以て厭勝と為し，射て而して之を下す。援軍は人の能く城に入りて啟を送る者を募り，鄱陽の世子の**嗣**の左右の**李朗**は請いて先ず鞭を受け，詐りて罪を得ると為し，叛いて賊に投じ，因りて城に入るを得たり，城中は方に援兵が四集するを知り，城を舉げて鼓噪す。**上**は**朗**を以て直閤將軍と為し，金を賜りて之を遣る。**朗**は鐘山之後に緣り，宵に行き晝は伏せ，積日にして乃ち達す。

■［救援軍は渡河合戦し、深入り］癸未（19+60-53+1=２７日），鄱陽の世子の**嗣**、永安（魏晋に永安県、平陽郡に属す・江左は南河東郡を僑立して永安県も僑立、荊州に属す）侯の**確**、**莊鐵**、**羊鴉仁**、**柳敬禮**、**李遷仕**、**樊文皎**は兵を將いて淮を度り，東府の前柵を攻め，之を焚く。**侯景**は退く。衆軍は青溪之東に營し，**遷仕**、**文皎**は鋭

卒五千を帥いて獨り進みて深く入り，向かう所摧靡す。菰首橋（青溪の上）の東に至り，**景**の將の**宋子仙**は兵を伏せて之を擊ち，**文皎**は戰死し，**遷仕**は遁げ還る。**敬禮**は，**仲禮**之弟也。

■［救援軍は私怨で不統一、戦心無し］**仲禮**の神情は傲很にして，諸將を陵蔑し，邵陵王の**綸**は毎日鞭を執りて門に至り，亦た時を移して見ず，是に由りて**綸**及び臨城公の**大連**と深く相い仇怨す。**大連**は又た永安侯の**確**と隙有り，諸軍は互いに相い猜阻し，戰心有る莫し。援軍は初めて至り，建康の士民は老を扶け幼を攜え以て之を候い，才（わずか）に淮を過ぎれば，即ち兵を縱ちて剽掠す。是に由りて士民は失望し，賊中に官軍に應ぜんと謀る者有り，之を聞き，亦た止む。

■東魏**王顯貴**は壽陽を以て東魏に降る。（侯景が王顯貴に命じて壽陽を守らせる、前巻前年にあり）

【侯景は偽りの和睦】

■［両軍飢餓と和睦］臨賀王の記室の吳郡の**顧野王**は兵を起こして**侯景**を討ち，**二月**，己丑（25-23+1=３日），兵を引いて來たり至る。初め，台城之閉じる也，公卿は食を以て念と為し，男女貴賤は並びに出でて米を負い，四十萬斛を得，諸府藏の錢帛五十萬億を收め，並びに德陽堂に聚め，而も薪芻、魚鹽を備えず。是に至り，尚書省を壞して薪と為す。薦（藁の寢所に敷くもの）を撤し，剉（きざ）みて以て馬を飼う。薦は盡き，又た食わしむるに飯を以てす。軍士は膜（かい）（脯、干し肉）無く，或は鎧を煮、鼠を熏し、雀を捕え而して之を食す。御甘露廚（釋氏は営繕の所を呼ぶ）に干苔有り，味は酸鹹なり，分けて戰士に給す。軍人は馬を殿省の間に屠り，雜えるに人肉を以てし，食する者は必ず病む。**侯景**の衆も亦た饑え，抄掠して獲る所無し。東城（東府城）に米有り，一年を支える可し，援軍は其の路を斷つ。又た荊州の兵の將に至らんとするを聞き，**景**は甚だ之を患える。**王偉**は曰く、

「今台城は猝に拔く可からず，援兵は日々に盛んにして，吾が軍は食乏し。若し偽りて且（しばら）く和を求め以て其の勢を緩めれば，東城之米は，一年を支えるに足る，和を求める之際に因りて，米を運びて石頭に入れれば，援軍は必ず動くを得ず，然る後に士を休め馬を息め，器械を繕修し，其の懈怠を伺いて之を擊てば，一舉に取る可き也。」

景は之に從い，其の將の**任約**、**於子悅**を遣わして城下に至らしめ，拜表して和を求め，先ず鎮を復せんを乞う。**太子**は城中の窮困を以て，**上**に白し，之を許さんと請う。**上**は怒りて曰く、

「和は死するに如かず！」

太子は固く請いて曰く、

「**侯景**は圍逼すること已に久しく，援軍は相い仗りて戰わず，宜しく且く其の和を許し，更に後圖を為すべし。」

上は遲回して之久しくし，乃ち曰く、

「汝は自ら之を圖れ，千載に笑いを取ら令むる勿かれ。」

遂に報じて之を許す。**景**は江右四州之地（豫州・合州・北徐州・東徐州）を割くを乞い，並せて宣城王の**大器**の出で送らんを求め，然る後に江を濟らんとす。中領軍の**傅岐**は固く爭いて曰く、

「豈に賊の兵を擧げて宮を圍み而して更に之と和する有り乎！此れ特に援軍を卻けんと欲する耳。戎狄は獸心なり，必ず信ずる可からず。且つ宣城の嫡嗣之重き，國命の繫る所，豈に質と為す可けんや！」

上は乃ち**大器**之弟の石城公の**大款**を以て侍中と為し，出して**景**の質とす。又た諸軍に敕して復た進むを得ざらしめ，下詔して曰く、

「善兵は戰わず，戈を止めるを武と為す。**景**を以て大丞相，都督江西四州諸軍事と為す可し，豫州牧、河

南王は故の如し。」
己亥（35-23+1=１３日），壇を西華門外に設け，僕射の**王克**、上甲侯の**韶**、吏部郎の**蕭瑳**を遣わし**於子悦**、**任約**、**王偉**と壇に登りて共に盟う。**太子**詹事の**柳津**は西華門を出，**景**は柵門を出，遙に相い對し，更に牲（犧牲、生贄）を殺し血を歃りて盟と為す。既に盟し，而るに**景**は長圍を解かず，専ら鎧仗を修め，托して云う、
「船無く，即ち發するを得ず」
と，又た云わく、
「南軍（梁の援軍、秦淮河の南岸から来る）に躡まれんことを恐れる」
と，石城公を遣り台に還らしめ，**(9-226p)** 宣城王の出で送らんことを求める。邀求は稍く廣く，了に去る志無し。**太子**は其の詐言を知れども，猶ほ羈縻して絕たず。**韶**は，**懿**之孫也。
■［太子と侯景の駆け引き］庚子（36-23+1=１４日），前南兗州刺史の南康王の**會理**、前青冀二州刺史の湘潭侯の**退**、西昌侯の世子の**彧**は衆合わせて三萬，馬卬洲（王家沙、老鶴嘴の一角、台城の北）に至り，**景**は其の白下より而して上らんことを慮り，啟して云わく、
「敕を請う、北軍（馬卬洲にいる軍）聚まりて南岸（秦淮河の南岸）に還らんことを，爾らざれば，臣が江を濟るを妨げん。」
太子は即ち**會理**を勒して白下城より軍を江潭苑に移さしむ。**退**は，**恢**之子也。
■［偽講和下の人事］辛丑（37-23+1=１５日），邵陵王の**綸**を以て司空と為し，鄱陽王の**范**を征北將軍と為し，**柳仲禮**を侍中、尚書右僕射と為す。**景**は**於子悦**、**任約**、**傅士烝**を以て皆な儀同三司と為し，**夏侯譓**を豫州刺史と為し，**董紹先**を東徐州刺史と為し，**徐思玉**を北徐州刺史と為し，**王偉**を散騎常侍と為す。**上**は**偉**を以て侍中と為す。
■［侯景は廣陵譙州を借用］乙卯（51-23+1=２９日、日付けが前後する?），**景**は又た啟して曰く、
「適々西岸（江の西岸、歷陽）の信至る有り，**高澄**は已に壽陽、鐘離を得，臣は今足を投げる所無し，廣陵並びに譙州を借りんことを求む，壽陽を得るを俟ち，即ち朝廷に奉還せん。」
又た云わく、
「援軍は既に南岸に在り，須く京口に於いて江を渡るべし。」
太子は並びて之を答許す。
■癸卯（39-23+1=１７日），大赦す。
■［永安侯確は侯景の真意を見抜く］庚戌（46-23+1=２４日），**景**は又た啟して曰く、
「永安侯の**確**、直閤の**趙威方**は頻る柵を隔てて詬られ、云わく、『**天子**は自ら汝と盟う，我は終に當に汝を破るべし』と。乞う、**侯**及び**威方**を召して入れん，即ち當に路を引くべし。」
上は吏部尚書の**張綰**を遣わして**確**を召し，辛亥（47-23+1=２５日），**確**を以て廣州刺史と為し，**威方**を盱眙太守と為す。**確**は累りに啟して固辭し，入らず，**上**は許さず。**確**は先ず**威方**を遣わして城に入らしめ，因りて南（荊江の二鎮）に奔らんと欲す。邵陵王の**綸**は泣いて**確**に謂って曰く、
「城を圍むこと既に久しく，**聖上**は憂危す，臣子之情は，湯火よりも切なり，故に且く盟い而して之を遣り，更に後計を申ねんと欲す。成命は已に決す，何ぞ拒違するを得んや！」
時に台使の**周石珍**、東宮主書の**左法生**は**綸**の所に在り，**確**は之に謂って曰く、
「**侯景**は去らんと欲すると雲うと雖も、而るに長圍を解かず，意は見る可き也。今僕を召して城に入るとも，何の事に益あらんや！」

石珍は曰く、
「敕旨は此くの如し，郎は那んぞ辭するを得んや！」
確の意は尚ほ堅く，**綸**は大いに怒り，**趙伯超**に謂って曰く、
「譙州は我が為に之を斬らん！其の首を持し去れ！」
伯超は刃を揮い**確**を眦(ながしめ)して曰く、
「**伯超**は君侯を識れども，刀は識らざる也！」
確は乃ち流涕して城に入る。
■［蕭衍は野菜尽き、啜り泣く］**上**は常に蔬食し，城を圍むこと日久しきに及び，上の廚は蔬茹（野菜）皆な絕え，乃ち雞子（鶏卵）を食らう。**綸**は使者の暫く通じるに因り，雞子數百枚を上り，**上**は手に自ら料簡し，歔欷（啜り泣く）哽咽（喉につかえる）す。
■［湘東王繹は進まず］湘東王の**繹**は郢州之武城（水經注に、武口の水は上は安陸の延頭に通じ、南は武城に至り、大江に入ると。沙蕪口。湖北省江漢道黄陂県東南 50 里、現・武漢市黄陂区）に軍し，湘州刺史の河東王の**譽**は青草湖（湖南省湘江道湘陰県の北百里、現・岳陽県湘陰県）に軍し，信州（巴東郡に梁は置く、四川省東川道奉節県、現・重慶市奉節県）刺史の桂陽王の**慥**は（9-227p）西峡口に軍し，托して、
「四方の援兵を俟つ」
と雲い，淹留して進まず。中記室參軍の**蕭賁**は，骨鯁の士也，**繹**が早く下らざるを以て，心は之を非とする。嘗て**繹**と雙六（博打の一種、局に骰子二を置く）し，子を食らうに未だ下らず，**賁**は曰く、
「殿下は都(すべ)て下る意無し。」（戦国策に曰く、博の梟を貴ぶ所以は、便為れば背則ち食し、不便ならば則ち止めばなりと。以て子を食う可きに而も未だ下さざるは、其の便否を擬議するなり。賁は其の未だ下らざるに因り、雙六を借りて以て其の下りて君父を救わざるを諷す）
繹は深く之を銜(ふく)む。**上**の敕を得るに及び，**繹**は師を旋さんと欲し，**賁**は曰く、
「**景**は人臣を以て兵を舉げて闕に向かう，今若し兵を放てば，未だ江を渡るに及ばす，童子は能く之を斬らん矣，必ず為さざる也。**大王**は十萬之衆を以て，未だ賊を見ず而して退くは，奈何！」
繹は悦ばず，未だ幾くもなくして，事に因りて之を殺す。**慥**は，**懿**之孫也。

東魏●［司馬裔は西魏に附く］東魏の河内民の四千餘家は，魏の北徐州刺史の**司馬裔**（司馬楚之の後。司馬氏は河内郡温県が本願。魏の孝武帝が西に遷るや、裔は始めて郷里に帰り、温城に於いて義を起こし、西魏に附き、東魏と交戦し、頻りに克獲有り。河内郡守を授けられ、尋ぎて持節平東譙郡・北徐州刺史と為る）が，其の郷里也を以て，相い帥いて之に歸す。丞相の**泰**は**裔**を封じんと欲し，**裔**は固（因×）辭して曰く、
「士大夫は遠く皇化に歸す，**裔**は豈に能く之を帥いんや！義士を賣りて以て榮を求めるは，願う所に非ざる也。」

【侯景は台城を陥落させる】

■［王偉は侯景に決断を促す］**侯景**は東府の米を運びて石頭に入れ，既に畢わり，**王偉**は荊州の軍が退き（繹の軍の旋回），援軍多しと雖も，相い統壹せずを聞き，乃ち**景**を說いて曰く、
「王は人臣を以て舉兵し，宮闕を圍守し，妃主を逼辱し，宗廟を殘穢し，王之發を擢き，罪を數えるに足らず。今日此を持し，安所に身を容れんと欲する乎！盟いに背き而して捷つは，古より多し矣，願わくは且く其の變を觀るべし。」

■［侯景の堂々たる勧告文］臨賀王の**正徳**も亦た**景**に謂って曰く、

「大功は就るに垂々とす，豈に棄て去る可けんや！」

景は遂に啟を上り，上（続は帝）の十失を陳じ，且つ曰く、

「臣は事に方(あた)りて睽違（叛き違う）し，讜直（正直なる首）を冒陳する所以なり。**陛下**は虚誕を崇飾し，實錄を聞くを惡み，襖怪（続は妖怪）を以て嘉禎（良き幸い）と為し，天譴（天罰）を以て咎無しと為す。六藝を敷演し，前儒を排擯（排斥）するは，**王莽**之法也。鐵を以て貨と為し，輕重常無きは，公孫之制（漢の公孫述は鉄銭を用いる）也。爛羊は印を鐫(ほ)り（漢の更始に官爵を濫授す、長安これが語を為して曰く、爛羊胃騎都尉、爛羊頭關内侯と），朝章の鄙雜なるは，更始、**趙倫**（晉の趙王倫は簒位、貂蝉は坐に盈つ。時の人はこれが語を為して曰く、貂足らず、狗尾續ぐと）之化也。豫章（151 巻普通六年にあり）は天とする所を以て血仇（続は血讎）と為し，邵陵（151 巻普通六年にあり）は父存するを以て而して布を冠するは，**石虎**（後趙の君主親子、晉の成帝にあり）之風也。浮圖（寺院）を修建し，百度糜費（奢りにまかせて費やす）し，四民をして饑餒せしめるは，**笮融**（仏に事えること漢の獻帝紀にあり）、**姚興**（仏に事えること晉の安帝紀にあり）之代也。」

又た言わく、

「建康の宮室は崇侈にして，**陛下**は唯だ主書と萬機を參斷し，政は賄を以て成り，諸閹（諸々の宦官）は豪盛に，衆僧は殷實（充実・富裕）なり。**皇太子**は珠玉を是れ好み，**(9-228p)** 酒色に是れ耽り，言を吐けば輕薄に止まり，賦詠は《桑中》（詩経の衛風にあり、淫放の詩なり）を出でず。邵陵（王）は所在殘破す。湘東（王）は群下貪縱す。南康（王、會里は帝の子の續の子、廣陵に鎮す）、定襄（王、祇は南平王偉の子、淮陰に鎮す）之屬は，皆な沐猴に而して冠する（外見は立派だが、中身は愚かな者をあざけって言う）が如き耳。親は孫侄為り，位は則ち籓屏なり，臣至りて百日，誰か肯えて勤王ならん！此れ而して靈長なるは，未だ之れ有らざる也。昔鬻拳(いくけん)兵諫（左傳に、鬻拳は楚子を彊諫す。楚子は従わず。これに臨むに兵を以てす。懼れてこれに従う）し，王は卒に改善す，今日之舉は，復た奚(なん)ぞ罪あらん乎！伏して願わくは**陛下**は小さく懲りて大いに戒め（易の繫辭傳の言），讒を放ち忠を納れ，臣をして再舉之憂い無く，**陛下**をして城に嬰(よ)る之辱め無から使めんことを，則ち萬姓幸甚ならん！」

■［城中死屍累々、援軍躊躇］**上**は啟を覽，且つ慚じ且つ怒る。三月，丙辰（52-52+1=１日）朔，壇を太極殿の前に立て，天地に告げる。**景**が盟いに違えるを以て，烽を舉げ鼓噪す。初め，閉城之日に，男女は十餘萬，甲を擐する者は二萬餘人あり。圍まれること既に久しく，人は多く身は腫れ氣急し，死者は什に八九，城に乘る者は四千人に滿たず，率ね皆な羸喘（疲病氣急、南史景傳には羸懦に作る）。横屍は路に滿ち，瘞埋（古代祭地禮儀之一）す可からず，爛汁は溝に滿ち，而して衆心は猶ほ外援を望む。**柳仲禮**は唯だ妓妾を聚め，置酒して樂を作し，諸將は日々往き戰わんと請い，**仲禮**は許さず。安南侯の**駿**は邵陵王の**綸**を說いて曰く、

「城は危きこと此くの如し，而るに都督は救わず，若し萬一不虞あれば，**殿下**は何の顏(かんばせ)ありてか自ら世に立たんや！今宜しく軍を分けて三道と為すべし，賊の不意に出て之を攻めるべし，以て志を得る可し。」

綸は從わず。**柳津**は城に登りて**仲禮**に謂って曰く、

「汝の君父は難に在り，力を竭す能わず，百世之後，汝を謂って何と為さん！」

仲禮も亦た以て意と為さず。**上**は策を**津**に問い，對えて曰く、

「**陛下**は邵陵有り，臣は**仲禮**有り，不忠不孝なり，賊は何に由りてか平らがん！」

■［南康王會理の攻撃は大敗］戊午（54-52+1=３日），南康王の**會理**は**羊鴉仁**、**趙伯超**等と進みて東府城の北に營し，夜軍を渡さんと約す。既に而して**鴉仁**等は曉猶ほ未だ至らず，**景**の衆は之を覺る。營は未だ立たず，**景**は**宋子仙**をして之を擊た使め，**趙伯超**は風を望みて退き走る（胡三省曰く、寒山の敗、玄武湖側の敗、

及び此の時の敗は皆趙伯超がこれを為すなりと)。**會理**等の兵は大敗し，戰及び溺死者は五千人。**景**は其の首を闕下に積み，以て城中に示す。

■［侯景の総攻撃で、蕭衍は観念す］**景**は又た**於子悦**をして和を求め使め，**上**は御史中丞の**沈浚**をして**景**の所に至ら使む。**景**は實は去る志無し，**浚**に謂って曰く、

「今天の時は方に熱し，軍は未だ動かす可からず，乞う且く京師に留まりて效を立てん。」

浚は憤りを發して之を責め，**景**は對えず，刀を横えて之を叱す(殺すぞとの脅し)。**浚**は曰く、

「恩に負き義を忘れ，詛盟を違棄す，固(まこと)に天地の容れざる所なり！**沈浚**は五十之年，常に死所を得ざるを恐れる，何為れぞ死を以て相い懼れん邪！」

因りて徑(ただ)ちに去りて顧みず。**景**は其の忠直を以て，之を捨く。是に於いて**景**は石闕前の水（侯景が玄武湖の水を注いだもの）を決し，百道より城を攻め，晝夜息まず。邵陵の世子の**堅**は太陽門に屯し，終日蒲飲（博打飲酒）し，吏士を恤えず，其の書佐の**董勳**、(9-229p) **熊曇朗**は之を恨む。丁卯(3+60-52+1=１２日)，夜曉に向々とし，**勳**、**曇朗**は城の西北樓に於いて**景**の衆を引いて城に登り，永安侯の**確**は力戰し，卻く能わず，乃ち闥を排して入りて**上**に啟して云わく、

「城は已に陷る。」

上は安臥して動かず，曰く、

「猶ほ一戰す可き乎？」

對えて曰く、

「不可なり。」

上は歎じて曰く、

「我より之を得，我より之を失えり，亦た復た何をか恨まん！」

因りて**確**に謂って曰く、

「汝は速に去れ，汝の父に語れ，二宮（上台と東宮）を以て念を為す勿かれ。」

因りて在外の諸軍を慰勞せ使む。

■［侯景と対面した蕭衍は首を俯く］俄に而して**景**は**王偉**を遣わして文德殿に入り謁を奉らしめ，**上**は命じて簾を褰(かか)げ戸を開きて**偉**を引いて入らしめ，**偉**は**景**の啟を拜呈し，稱す、

「奸佞の蔽う所と為り，衆を領して入朝し，聖躬を驚動す，今闕に詣りて罪を待つ。」

上は問う、

「**景**は何くに在りや？召し來たる可し。」

景は入りて太極東堂に見ゆ，甲士五百人を以て自衛す。**景**は殿下に稽顙（立ったまま挨拶）し，典儀（朝陵を典る者）引きて三公の榻に就かしむ。**上**は神色變わらず，問いて曰く、

「卿は軍中に在ること日久しく，乃ち勞と為す無きか！」

景は敢えて仰視せず，汗は流れて面を被う。又た曰く、

「卿は何州の人に，而して敢えて此に至る，妻子は猶ほ北に在る邪？」

景は皆な對える能わず。**任約**は旁より代わり對えて曰く、

「臣**景**の妻子は皆な**高氏**の屠る所と為る，唯だ一身を以て**陛下**に歸す。」

上は又た問う、

「初めて江を渡るに幾人有るや？」

景は曰く、

「千人。」
「台城を圍むは幾人ぞや？」
曰く、
「十萬。」
「今幾人有るや？」
曰く、
「率土之內に，己の有に非ざるは莫し。」
上は首を俯(うつむ)いて言わず。
■［太子もまた侯景を懼れず］**景**は復た永福省に至りて**太子**に見え，**太子**も亦た懼れる容無し。侍衛は皆な驚散し，唯だ中庶子（太子の侍中）の**徐摛**(ち)、（中書）通事舍人の陳郡の**殷不害**は側に侍す。**摛**は**景**に謂って曰く、
「**侯王**は當に禮を以て見ゆるべし，何ぞ此くの如きを得んや！」
景は乃ち拜す。**太子**與に言い，又た對える能わず。
■［侯景は二度と蕭衍に会わず］**景**は退き，其の廂公（侯景の親貴隆重なる者、号して左右廂公）の**王僧貴**に謂って曰く、
「吾は常に鞍に跨り陳に對し，矢刃交々下れども，而るに意氣は安緩として，了に怖れる心無し。今**蕭公**を見るに，人をして自ら懾(おそ)れ使む，豈に天威の犯す難きに非ずや！吾は以て再び之を見る可からず。」
是に於いて悉く兩宮の侍衛を撤し，兵を縱ちて乘輿、服御、宮人を掠め皆な盡く。朝士、王侯を収めて永福省に送り，**王偉**をして武德殿を守り，**於子悅**を太極東堂に屯せ使む。矯詔して大赦し，自ら大都督中外諸軍、錄尚書事を加える。
■［建康の士民は四散］建康の士民は難を逃れて四出す。**太子**の洗馬の**蕭允**は京口に至り，端居して行かず，曰く、
「死生は命有り，如何して逃れる可けんや！禍之來たる所，皆な利に生ず。苟くも利を求めざれば，禍いは何くより生じるや！」

【侯景支配下の建康】

■［詔勅により救援軍の解散］己巳（5+60-52+1=１４日），**景**は石城公の**大款**を遣わして詔命を以て外援の軍を解かしむ。**柳仲禮**は諸將を召して之を議す，邵陵王の**綸**は曰く、
「今日之命，之を將軍に委ねん。」
仲禮は熟視して對えず。**裴之高**、**王僧辯**は曰く、
「將軍は衆百萬を擁し，宮闕の淪沒するを致す，正に當に力を悉くして決戰すべし，何ぞ多言する所あらん！」
仲禮は竟に一言無し，(9-230p) 諸軍は乃ち方に隨いて各々散じる。南兗州刺史の臨成公の**大連**、湘東の世子の**方等**、鄱陽の世子の**嗣**、北兗州刺史の（定襄侯の祇、前の青冀二州刺史の）湘潭侯の**退**、吳郡太守の**袁君正**、晉陵太守の**陸經**等は各々本鎮に還る。**君正**は，**昂**之子也。邵陵王の**綸**は會稽に奔る。**仲禮**及び弟の**敬禮**、**羊鴉仁**、**王僧辯**、**趙伯超**は並びて營を開きて降り，軍士は歎憤せざるは莫し。**仲禮**等は城に入り，先ず**景**を拜し而る後に**上**に見ゆ。**上**は與に言わず。**仲禮**は父の**津**を見，**津**は慟哭して曰く、
「汝は我が子に非ず，何ぞ相い見るを勞せん！」

湘東王の**繹**は全威將軍の會稽の**王琳**をして米二十萬石を送りて以て軍に饋ら使め，姑孰に至り，台城の陷ちるを聞き，米を江に沉め而して還る。

■**景**は命じて台內の積屍を燒かしめ，病篤く未だ絕えざる者も，亦た聚め而して之を焚く。

■［侯景は旧体制維持を宣言］庚午（6+60-52+1=１５日），征鎭牧守に詔して、

「本任に復す可し。」

景は**柳敬禮**、**羊鴉仁**を留め，而して**柳仲禮**を遣りて司州に歸らしめ，**王僧辯**をして竟陵に歸らしむ。初め，臨賀王の**正德**は**景**と約し，

「城を平らぐる之日，二宮を全くするを得ず。」

城開くに及び，**正德**は衆を帥いて刀を揮いて入らんと欲し，**景**は先ず其の徒をして門を守ら使め，故に**正德**は入るを果たさず。**景**は更に**正德**を以て侍中、大司馬と為し，百官は皆な舊職に復す。**正德**は入りて上に見え，拜し且つ泣く。**上**は曰く、

「啜として其れ泣く矣，何ぞ嗟(なげ)く及ばん矣！」

■秦郡、陽平（安宜県に梁は陽平郡を置く、江蘇省淮陽道寶應県の西南、現・揚州市宝応県）、盱眙の三郡は皆な**景**に降り，**景**は陽平を改めて北滄州と為し，秦郡を改めて西兗州と為す。

■東魏［国境地帯は東魏に帰す］東徐州（五代志に、下邳郡に梁は東徐州を置く）刺史の**湛海珍**、北青州刺史の**王奉伯**、淮陽太守の**王瑜**は，並びて地を以て東魏に降る。（五代志に、海州懐仁県に梁は南北二青州を置くと、山東省東臨道徳平県東南 20 里、徳県なら現・徳州市徳城区）青州刺史の**明少遐**、山陽（江蘇省淮陽道淮安県、現・淮安市淮安区）太守の**蕭鄰**は城を棄てて走り，東魏は其の地に據る。

■**侯景**は儀同三司の**蕭邕**を以て南徐州刺史と為し，西昌侯の**淵藻**に代わりて京口に鎭せしむ。又た其の將の**徐相**を遣わして晉陵を攻めしめ，**陸經**は郡を以て之に降る。

■［荊州江陵方面の混乱］初め，**上**は河東王の**譽**を以て湘州刺史と為し，湘州刺史の**張纘**を徙して雍州刺史と為し，岳陽王の**察**に代らしむ。**纘**は其の才望を恃み，**譽**が少年なるを輕んじ，迎候に闕ける有り。**譽**は至り，州府の付度（前の刺史は州府の事物を以て後の刺史に忖度するをいう）の事を檢括し，**纘**を留めて遣らず。**侯景**の亂を作すを聞き，頗る**纘**を陵蹙す。**纘**は害する所と為るを恐れ，輕舟にて夜遁げ，將に雍部に之(ゆ)かんとし，復た**察**が之を拒まんことを慮る。**纘**は湘東王の**繹**と舊有り，之に因りて以て**譽**兄弟を殺さんと欲し，乃ち江陵に如く。台城の陷るに及び，諸王は各々州鎭に還り，**譽**は湖口（洞庭・青草ともに一湖となり、湖口は巴陵にあり、武陵道岳陽県、現・岳陽市岳陽県）より湘州に歸る。(9-231p) 桂陽王の**慥**は荊州は督府（繹は荊州刺史なるを以て荊州揚州など九州を都督し、慥・譽・纘は其の屬なり）なるを以て軍を江陵に留め，**繹**が至るを待ちて拜謁し，乃ち信州に還らんと欲す。**纘**は**繹**に書を遺りて曰く、

「河東は檣（帆柱）を戴きて水に上り（洞庭より江陵は溯る），江陵を襲わんと欲す，岳陽は雍に在り，共に不逞を謀る。」

江陵の遊軍主の**朱榮**は亦た遣使して**繹**に告げて云わく、

「桂陽は此に留まり，**譽**、**察**に應ぜんと欲す。」

繹は懼れ，船を鑿ち，米を沉め，纜(ともづな)を斬り，蠻中より步道し馳せて江陵に歸り，**慥**を囚え，之を殺す。

■［董紹先は廣陵の會理を接収］**侯景**は前臨江（安徽省安慶道和県、現・馬鞍山市和県）太守の**董紹先**（前巻前年に侯景に降る）を以て江北行台と為し，**上**の手づからの敕を繼(もたら)し，南兗州刺史の南康王の**會理**を召さ使む。壬午（18+60-52+1=２７日），**紹先**は廣陵に至り，衆は二百に滿たず，皆な日を積みて饑え疲れる。**會理**の士馬は甚だ盛んなり，僚佐は**會理**に說いて曰く、

「**景**は已に京邑を陥し，先ず諸籓を除きて，然る後に位を簒わんと欲す。若し四方拒絶すれば，立ちどろに當に潰敗すべし，奈何して全州之地を委てて以て寇手を資(たす)けんや！**紹先**を殺し，兵を發して固く守り，魏と連和し，以て其の變を待つに如かず。」

會理は素より懦なり，即ち城を以て之に授ける。**紹先**は既に入り，衆は敢えて動く莫し。**會理**の弟の**通理**は先ず建康に還るを請い，其の姊に謂って曰く、

「事は既に此くの如し，豈に闔家（家中）は斃れるを受ける可けんや！前途亦た效を立てんと思う，但だ未だ天命の如何を知らざる耳。」

紹先は悉く廣陵の文武部曲、鎧仗、金帛を収めて，**會理**を遣りて單馬にて建康に還らしむ。

■東魏［淮陰も東魏に属す］湘潭侯の**退**は北兗州刺史の定襄侯の**祗**と東魏に出奔す。**侯景**は**蕭弄璋**を以て北兗州刺史と為し，州民は兵を發して之を拒む。**景**は直閣將軍の**羊海**を遣わして兵を將いて之を助けしめ，**海**は其の衆を以て東魏に降る，東魏は遂に淮陰に據る。**祗**は，**偉**之子也。

■［侯景は呉郡を平定］癸未（19+60-52+1=２８日），**侯景**は**於子悦**等を遣わして羸兵數百を將いて東に呉郡を略さしむ。新城（浙江省錢塘道新登県、現・杭州市富陽区新登鎮）戍主の**戴僧逖**は精甲五千有り，太守の**袁君正**を說いて曰く、

「賊は今食乏しく，台中の得る所は，一旬を支えず。若し關を閉じて拒み守れば，立ちどころに餓死す可し。」

土豪の**陸映公**等は勝つ能わず而して資產の掠せらるを恐れ，皆な**君正**に之を迎えんと勸む。**君正**は素より怯にして，米及び牛酒を載せて郊迎す。**子悦**は**君正**を執り，財物、子女を掠奪し，東人は皆な堡を立てて之を拒む。**景**は又た**任約**を以て南道行台と為し，姑孰に鎮せしむ。

■［江陵の蕭繹は台城落城を知る］**夏，四月**，湘東の世子の**方等**は江陵に至り，湘東王の**繹**は始めて台城の守らざるを知り，江陵の四旁七里に命じて木を樹てて柵と為し，塹を掘ること三重に而して之を守る。

東魏●［東魏の潁川水攻めは暴風で失敗、慕容紹宗戦死］東魏の**高岳**等は魏の潁川を攻め（去年攻める），克たず。大將軍の**澄**は兵を益(ま)して之を助け，道路は相い繼ぎ，**(9-232p)**年を逾えて猶ほ下らず。山鹿（内蒙古オルドス）の忠武公の**劉豐生**は策を建て，洧水を堰とめて以て之に灌ぎ，城は多く崩頽し，**岳**は衆を悉くして分けて休みて迭(たが)いに進む（交代制）。**王思政**は身は矢石に當たり，士卒と同じく勞苦し，城中の泉は湧き，釜を懸け而して炊く。太師の**泰**は大將軍の**趙貴**を遣わして東南諸州の兵を督して之を救わしめ，長社より以北は，皆な陂澤と為り，兵は穰（城）に至り，前むを得ず。東魏人は善く射る者をして大艦に乘りて城に之を射使め，城は陥るに垂々とす。燕郡の景惠公の**慕容紹宗**は**劉豐生**と堰に臨みて之を視，東北に塵起こるを見，同じく艦に入り坐して之を避く。俄に而して暴風は至り，遠近は晦冥なり，纜(ともづな)は斷え，船は飄(つむじかぜ)して徑に城に向かう。城上の人は長鉤を以て船を牽き，弓弩は亂髪し，**紹宗**は水に赴きて溺死し，**豐生**は游ぎ上り，土山に向かい，城上の人は之を射殺す。

東魏●［高澄は齊王となる］甲辰（40+22+1=１９日），東魏は大將軍の勃海王の**澄**の位を進めて相國とし，齊王に封じ，殊禮（贊拝に名いわず、入朝に趨らず、殿上に劒履す）を加える。丁未（43-22+1=２２日），**澄**は鄴に入朝し，固辭す。許さず。**澄**は將佐を召して密に之を議し，皆な**澄**に、

「宜しく朝命を膺くべし」

と勸め，獨り散騎常侍の**陳元康**は以て未だ可からずと為し，**澄**は是に由り之を嫌(きら)う。**崔暹**は乃ち**陸元規**を薦めて大行台郎と為し以て**元康**之權を分ける。

【救援軍混乱、蕭衍は餓死憤死】

■［湘東王繹と岳陽王察の対立］湘東王の**繹**之入援する也，督する所の諸州に令して皆な兵を發せしめ，雍州刺史の岳陽王の**察**は府の司馬の**劉方貴**を遣わして兵を將いて漢口に出でしむ。。**繹**は**察**を召して自ら行か使め，**察**は從わず。**方貴**は潛に**繹**と相い知り，襄陽を襲わんと謀る。未だ發せず。會々**察**は它事を以て**方貴**を召し，**方貴**は以為えらく謀は洩れると，遂に樊城に據りて命を拒み，**察**は軍を遣わして之を攻む。**繹**は資を厚くして**張纘**を遣わして鎮に赴か使め，**纘**は大堤（湖北省襄陽道宜城県、現・襄陽市宜城市）に至り，**察**は已に樊城を抜き，**方貴**を斬る。**纘**は襄陽に至り，**察**は推遷して未だ去らず，但だ城西の白馬寺を以て之を處く。**察**は猶ほ軍府之政を總べ，台城の陷ちるを聞き，遂に代を受けず。助防の**杜岸**は**纘**を紿いて曰く、

「岳陽の勢を觀るに使君を容れず，且く西山（萬山以西、中盧県の諸山、中盧県は湖北省襄陽道南漳県東北 60 里、現・襄陽市南漳県）に往き以て禍いを避けるに如かず。」

岸は既に襄陽の豪族にして，兄弟九人は，皆な驍勇を以て著名なり。**纘**は乃ち**岸**と結盟し，婦人衣を著，青布の輿に乘り，逃げて西山に入る。**察**は**岸**をして兵を將いて追いて之を擒え使む，**纘**は沙門と為り，名を**法纘**と更めんと乞い，**察**は之を許す。

■荊州長史の**王沖**等は箋を湘東王の**繹**に上り，太尉、都督中外諸軍事を以て製を承け（諸藩の）盟を主らんを請い，**繹**は許さず。（五月）丙辰（52-51+1=2 日），又た司空を以て盟を主らんを請い，亦た許さず。

■［蕭衍は飲膳裁節、憤死］**上**は外は**侯景**の制する所と為ると雖も，而も內に甚だ平かならず。**景**は**宋子仙**を以て司空と為さんと欲し，（9-233p）**上**は曰く、

「陰陽を調和する（三公は陰陽を焚理す。宋子仙をその任に非ず）に，安んぞ此の物を用いんや！」

景は又た其の黨二人を以て便殿（寢側の別殿、梁の禁中の諸殿には主帥あり）の主帥と為さんと請い，**上**は許さず。**景**は強いる能わず，心は甚だ之を憚れる。**太子**は入り，泣きて諫め，**上**は曰く、

「誰か汝をして來たら令むや！若し社稷に靈有れば，猶ほ當に克復すべし。如し其れ然れども，何ぞ事流涕を事とせん！」

景は其の軍士をして入りて省中に直せ使め，或は驢馬を驅り，弓刀を帶び，宮庭に出入りす，**上**は怪しみ而して之を問い，直閤將軍の**周石珍**は對えて曰く、

「**侯**丞相の甲士なり。」

上は大いに怒り，**石珍**を叱して曰く、

「是れ**侯景**なり，何ぞ丞相と謂うや！」

左右は皆な懼れる。是の後に**上**の求める所は多く志を遂げず，飲膳も亦た裁節する所と為る，憂憤して疾を成す。**太子**は幼子の**大圜**を以て湘東王の**繹**に屬（託す）し，並びに爪發を剪りて以て之に寄す。**五月**，丙辰（52-51+1=２日），**上**は淨居殿に臥し，口苦く，蜜を索むれども得ず，再び曰く、

「荷！荷！」（カカ、怨み怒る言葉）

遂に殂す。年は八十六。**景**は秘して喪を發せず，遷して昭陽殿（侯景が居る）に殯し，**太子**を永福省に迎え，常の如く入朝せ使む。**王偉**、**陳慶**は皆な**太子**に侍し，**太子**は嗚咽流涕し，敢えて聲を洩（続は泄）さず，殿外の文武は皆な之を知る莫し。

東魏●［高澄は自ら長社を攻める］東魏の**高岳**は既に**慕容紹宗**等を失い，志氣沮喪し，敢えて復た長社

（王思政が守る、河南省開封道長葛県、現・許昌市長葛市の東）城に逼らず。**陳元康**は大将軍の**澄**に言って曰く、
「王は輔政より以來，未だ殊功有らず。**侯景**を破る（太清元年に高澄は侯景を破る）と雖も，本は外賊に非ず。今潁川は陷るに垂々とし，願わくは王は自ら以て功と為せ。」
澄は之に從い，戊寅（14+60-51+1=２４日），自ら步騎十萬を將いて長社を攻め，親ら臨みて堰を作る。堰は三たび決（決壞）し，**澄**は怒り，土を負う者及び囊を推し並せて之を塞ぐ。
■［皇太子即位］辛巳（17+60-51+1=２７日），**高祖**の喪を發し（死後 26 日），梓宮を太極殿に升す。是の日，**太子**は**皇帝**に即位し，大赦す。**侯景**は出でて朝堂（大極殿の左右）に屯し，兵を分けて守衛す。
■［侯景は北人奴婢を解放］壬午（18+60-51+1=２８日），北人の南に在りて奴婢と為る者に詔して，皆な之を免じ，免るる所は萬計なり。**景**は或は更に超擢を加え，其の力を收めんことを冀（こいねが）う。
■［建康は食糧自給不可で、ほとんど餓死］**高祖**之末，建康の士民の服食、器用は，爭いて豪華を尚（たっと）び，糧に半年之儲え無く，常に四方の委輸（輸送する物）に資（よ）る。**景**が亂を作すより，道路は斷絕し，數月之間，人は相い食むに至り，猶ほ餓死を免れず，存する者は百に一二無し。貴戚、豪族は皆な自ら出でて穉（ひつじ）（稲刈りをした後の株に再生した稲、続は絹）を采り，溝壑（溝・谷間、貧困などのために路傍で倒れ死ぬ場合などに用いる）に填委（堆積）するは，勝げて紀す可からず。
■［侯景の号令は広がらず、限定的］癸未（19+60-51+1=２９日），**景**は儀同三司の**來亮**を遣わして宛陵（漢の丹陽郡の県、晉は分けて宣城郡の治所、安徽省蕪湖道宣城県、現・宣城市宣州区）に入らしめ，宣城太守の**楊白華**は誘い而して之を斬る。甲申（20+60-51+1=３０日），**景**は其の將の**李賢明**を遣わして之を攻め，克たず。**景**は又た中軍（都督）の**侯子鑒**を遣わして吳郡に入らしめ，廂公の**蘇單于**を以て吳郡太守と為し **(9-234p)**，儀同の**宋子仙**等を遣わして兵を將いて東に錢塘に屯せしめ，新城戍主の**戴僧逖**は縣に據りて之を拒む。御史中丞の**沈浚**は避難して東に歸り，吳興に至り，太守の**張嵊**は之と合い謀りて，兵を擧げて**景**を討つ。**嵊**，**稷**（張稷は齊の東昏侯を弑して後に鬱州に死す）之子也。東揚州（五代志に、會稽郡に梁は置く州）刺史の臨城公の**大連**も，亦た州に據りて**景**の命を受けず。**景**の號令の行う所は，唯だ吳郡以西、南陵以北に而して已む。

●魏は詔す、
「太和中に代人の改姓（140 卷齊の明帝建武二年にあり）する者は皆な其の舊に復せしむ。」
■**六月**，丙戌（22-21+1=２日），南康王の**會理**を以て侍中、司空と為す。
■丁亥（23-21+1=３日），宣城王の**大器**を立てて**皇太子**と為す。
■［湘東王繹は嫉妬して劉之遴を殺す］初め，**侯景**は將に太常卿の南陽の**劉之遴**を使わして臨賀王の**正德**に璽綬を授けんとし，**之遴**は剃髮し僧服し而して逃げる。**之遴**は博學にして能く文をなし，嘗て湘東王の**繹**の長史と為る。將に江陵に歸らんとし，**繹**は素より其の才を嫉み，己丑（25-21+1=５日），**之遴**は夏口に至り，**繹**は密に藥を送りて之を殺し，而して自ら志銘を為り，其の賻贈（続は贈賻）を厚くす。
■［諸王の処遇］壬辰（28-21+1=８日），皇子の**大心**を封じて尋陽王と為し，**大款**を江陵王と為し，**大臨**を南海王と為し，**大連**を南郡王と為し，**大春**を安陸王と為し，**大成**を山陽王と為し，**大封**を宜都王と為す。
東魏●［高澄は長社の王思政を降して礼遇す］長社の城中に鹽無く，人は攣腫（れんしゅ）（筋肉痙攣皮膚張る病気）を病み，死者は什に八九なり。大風は西北より起こり，水を吹きて城に入り，城は壞れる。東魏の大將軍の**澄**は城中に令して曰く、
「能く**王**大將軍（太清元年に魏は王思政を大将軍）を生きて致す者有れば侯に封じん。若し大將軍の身に損傷有

れば，親近左右は皆な斬らん。」
王思政は衆を帥いて土山（東魏の築いたもの）に據り，之に告げて曰く、
「吾は力屈して計窮まり，唯だ當に死を以て國に謝すべきのみ！」
因りて天を仰ぎて大いに哭し，西に向かいて再拜し，自ら刎はねんと欲し，都督の**駱訓**は曰く、
「公は常に**訓**等に語る、『汝は我が頭を繼ぎて出で降れ，但だ富貴を得るのみに非ず，亦た一城の人を完くせん』と。今**高相**は既に此の令有り，公は獨り士卒之死するを哀まざる乎！」
衆は共に之を執り，引決するを得ず。**澄**は通直散騎の**趙彥深**を遣わして土山に就きて遺るに白羽扇を以てし，手を執り意を申べ，之を牽きて以て下す。**澄**は拜せ令めず，延き而して之に禮す。**思政**は初め潁川に入るや，將士八千人，城陷るに及び，才（わずか）に三千人，卒に叛する者無し。**澄**は悉く其の將卒を遠方に散配す。潁川（続は潁州、この方がふさわしい）を改めて鄭州と為す，**思政**を禮遇すること甚だ重し。西閣祭酒（後齊の制度では、三師・二大・三公は各々東西閣祭酒を置く。二大は大司馬・大将軍）の**盧潛**は曰く、
「**思政**は節に死する能わず，何ぞ重んず可きに足りん！」
澄は左右に謂って曰く、
「我は**盧潛**有り，乃ち是れ更に一の**王思政**を得る。」
潛は，**度世**（魏の太武帝に事える）之曾孫也。
●<u>［宇文泰は長社陥落を後悔］</u>初め，**思政**は襄城に屯し，長社を以て行台治所と為さんと欲す，使者の**魏仲**を遣わして（9-235P）太師の**泰**に啟陳し，並せて書を淅州（修陽・朱陽・南上洛・淅陽・固郡を領す、河南省敘汝陽道内郷県に治す、淅陽は現・南陽市内郷県）刺史の**崔猷**に致す。**猷**は復書して曰く、
「襄城は京、洛を控帶し，實（続は寔）に當今之要地なり，如し動靜有れば，相い應接し易し。潁川は既に寇境に鄰りし，又た山川之固め無し，賊が若し潛に來たれぱ，逕に城下に至らん。兵を襄城に頓し、行台之所と為すべし。潁川に州を置き，良將を遣わして鎮守せしむるに若くは莫し，則ち表裡は膠固にして，人心は安んじ易く，縱（たと）え不虞有るとも，豈に能く患いを為さんや！」
仲は**泰**を見，具に以て啟聞す。**泰**は**猷**の策に依ら令む。**思政**は固く請い，且つ約す、
「賊は水攻期年、陸攻三年之內，朝廷は赴救を煩わさざらん。」
泰は乃ち之を許す。長社の守らざるに及び，**泰**は深く之を悔いる。**猷**は，**孝芬**（崔孝芬は高歡に殺され、子の猷は關中に入ること 156 巻中大通六年にあり）之子也。
●<u>［宇文泰は領土拡張を目的とせず、実を取る］</u>**侯景**之南に叛するや（160 巻元年），丞相の**泰**は東魏が復た**景**の所部の地を取らんことを恐れ，諸將をして分けて諸城を守ら使む。潁川の陷るに及び，**泰**は諸城の道路の阻絕するを以て，皆な軍を抜きて還ら令む。
■<u>［密勅により湘東王繹に承製］</u>上甲侯の**韶**（太子舍人の蕭韶、蕭懿の子の蕭淵猷の子）は建康より出でて江陵に奔り，**高祖**の密詔を承けると稱して徵兵し，湘東王の**繹**を以て侍中と為し、黄鉞を假し、大都督中外諸軍事、司徒とし、製を承けて，自餘の簒鎮並びに位號を加える。
■<u>[吳の盜の陸緝の挙兵]</u>**宋子仙**は**戴僧逖**（続は戴僧邁）を圍み，克たず。丙午（42-21+1=２２日），吳の盜の**陸緝**等は兵を起こして吳郡を襲い，**蘇單于**を殺し，前淮南太守の文成侯の**寧**を推して主と為す。
■<u>［蕭衍正德、蕭確を殺す］</u>臨賀王の**正德**は**侯景**の己を賣るを怨み，密書して鄱陽王の**范**を召し，兵を以て入ら使む。**景**は遮りて其の書を得，癸丑（49-21+1=２９日），**正德**を縊り殺す。**景**は儀同三司の**郭元建**を以て尚書僕射、北道行台と為し、江北諸軍事を總べ，新秦（旧秦郡を六合に置く、新秦は秦郡、江蘇省金陵道六合県、現・南京市六合区）に鎮せしむ。**元羅**等諸**元**の十餘人を封じて皆な王と為す。**景**は永安侯の**確**之勇を愛し，常

に左右に置く。邵陵王の**綸**は潜に人を遣わして之を呼ばしむ，**確**は曰く、
「**景**は輕佻にして，一夫の力なる耳，我は手づから之を刃せんと欲す，正に恨む未だ其の便を得ざるを。卿は還りて家王に啟せよ，**確**を以て念と為す勿かれ。」
景は**確**と鐘山に游び，弓を引いて鳥を射，因りて**景**を射んと欲し，弦は斷ち，發せず，**景**は覺り而して之を殺す。
■［蕭繹は世子蕭方等を侯景討伐に派遣］湘東王の**繹**は**徐孝嗣**の孫女を娶りて妃と為し，世子の**方等**を生む。妃は丑（続は醜）に而して妒（焼きもち、続は妬）なり，又た失行多し，**繹**は二三年に一たび其の室に至る。妃は**繹**の當に至るを聞き，**繹**の目眇なるを以て，半面の妝（化粧）を為し以て之を待つ，**繹**は怒り而して出で，故に**方等**も亦た寵無し。建康より江陵に還るに及び，**繹**は其の軍を御して和整なるを見，始めて其の能を歎じ，入りて**徐妃**に告ぐ，妃は對えず，泣を垂れ而して退く。**繹**は怒り，其の穢行を疏し，大閤に榜す，**方等**は之を見，益々懼る。湘州刺史の河東王の**譽**は，驍勇にして士心を得，**繹**は將に**侯景**を討たんとし，遣使して其の糧衆を督せしめ，**譽**は曰く、
「各自の軍府は，何ぞ忽ち人に隸せん！」
使者は三返すれども，**譽**は與えず。**(9-236p) 方等**は之を討たんと請い，**繹**は乃ち少子の安南侯の**方矩**を以て湘州刺史と為し，**方等**をして精卒二萬を將いて之を送ら使む。**方等**は將に行かんとし，親しい所に謂って曰く、
「是の行也，吾は必ず之に死せん。死して其の所を得れば，吾は復た奚ぞ恨まん！」
■［蕭大心は趙威方を破る］**侯景**は**趙威方**を以て豫章太守と為し，江州刺史の尋陽王の**大心**は軍を遣わして之を拒み，**威方**を擒とし，州獄に系ぎ，**威方**は逃げて建康に還る。
■［蕭方等の戦死、蕭繹の家内の混乱］湘東の世子の**方等**の軍は麻溪（湖南省湘江道長沙県の北、現・長沙市長沙県）に至り，河東王の**譽**は七千人を將いて之を擊つ。**方等**の軍は敗れ，溺死す。安南侯の**方矩**は餘衆を收めて江陵に還り，湘東王の**繹**は戚容無し。**繹**の寵姬の**王氏**は，子の**方諸**を生む。**王氏**は卒し，**繹**は**徐妃**が之を為す（毒殺と）と疑い，逼りて自殺せ令む，妃は井に赴きて死し，葬るに庶人の禮を以てし，諸子の制服を聽さず。

【廣州で陳霸先は挙兵】

■［陳霸先は蕭勃を迎えて廣州に鎮す］西江督護の**陳霸先**は兵を起こして**侯景**を討たんと欲す。**景**は人をして廣州刺史の**元景仲**（元法僧の子、普通六年に父子は梁に帰す）を誘わ使め，奉じて以て主と為さんことを許し，**景仲**は是に由りて**景**に附き，陰に**霸先**を圖る。**霸先**は是を知り，成州（五代志に、蒼梧郡に梁が置く、廣西省蒼梧道蒼梧県、現・広西荘族自治区梧州市蒼梧県）刺史の**王懷明**等と兵を南海（南海郡は廣州の治所、広東省粤海道南海県、現・仏山市南海区）に集め，檄を馳せて以て**景仲**を討ち、曰く、
「**元景仲**は賊と合從し，朝廷は曲陽侯の**勃**を遣わして刺史と為す。軍は已に朝亭（廣州城の東北 30 里）に頓す。」
景仲の所部は是を聞き，皆な**景仲**を棄てて而して散る。**秋，七月**，甲寅（50-50+1=１日），**景仲**は閤下に縊る。**霸先**は定州刺史の**蕭勃**を迎えて廣州に鎮す。
■［陳霸先は始興の郡事を監す］前高州（五代志に、高涼郡に梁は置く、広東省高雷道陽江県の西、現・陽江市江城区）刺史の**蘭裕**は，**欽**（157 巻大同元年にあり）之弟也，其の諸弟と始興等十郡を扇誘し，監衡州事の**歐陽頠**を攻める。**勃**は**霸先**をして之を救わ使め，悉く**裕**等を擒とし，**勃**は因りて**霸先**を以て始興の郡事を監せしむ。

■［蕭繹は王僧辯を疑い、僧辯の母は救出］湘東王の**繹**は竟陵太守の**王僧辯**、信州刺史の東海の**鮑泉**を遣わして湘州を撃ち，兵糧を分給し，日を刻して道に就かしむ。**僧辯**は竟陵の部下の未だ盡(ことごと)く至らざるを以て，衆の集まるを俟ちて然る後に行かんと欲し，**泉**と入りて**繹**に白し，期日（続は期）を申(かさ)ねんと求む。**繹**は**僧辯**が（情勢を）観望すと疑い，剣を按じて聲を厲まして曰く、

「卿は行くを憚り命を拒む，賊に同じくせんと欲する邪？今日は唯だ死有る耳！」

因りて**僧辯**を斫り，其の左髀に中たり，悶絕し，之久しく方に蘇り，即ち獄に送る。**泉**は震え怖れ，敢えて言わず。**僧辯**の母は徒行し流涕して入りて謝し，自ら訓(おし)え無きを陳じ，**繹**の意は解け，賜わるに良藥を以てし，故に死せざるを得る。丁卯（3+60−50+1=１４日），**鮑泉**は獨り兵を將いて湘州を伐つ。

■［宋子仙は陸輯を討伐］**陸輯**等は競いて暴掠を為し，吳人は附かず，**宋子仙**（戴僧逖を攻める）は錢塘より軍を旋して之を撃つ。壬戌（58−50+1=９日），**緝**は城を棄てて海鹽（浙江省錢塘道海鹽県、現・嘉興市海塩県）に奔り，**子仙**も復た吳郡に據る。戊辰（4+60−50+1=１５日），**侯景**は吳州を吳郡に置き，安陸王の**大春**を（9−237p）以て刺史と為す。

■庚午（6+60−50+1=１７日），南康王の**會理**を以て尚書令を兼ねしむ。

■東魏［合肥の蕭范は挙兵するも東魏に攻められ進退に窮す］鄱陽王の**范**は建康の守られざるを聞き，戒嚴し，入らんと欲し，僚佐の或は之を說いて曰く、

「今魏人は已に壽陽に據る，**大王**が足を移せば，則ち虜騎は必ず合肥を窺わん。前の賊未だ平らかざるに，後の城の守りを失えば，將に之を若何せん！四方の兵集まるを待つに如かず，良將をして精卒を將いて之に赴か使め，進みては勤王を失わず，退きては本根を固める可し。」

范は乃ち止む。會々東魏の大將軍の**澄**は西兗州刺史の**李伯穆**を遣わして合肥に逼り，又た**魏收**をして書を為りて**范**を諭さ使む。**范**は方に**侯景**を討たんと謀り，東魏に藉りて援と為し，乃ち戰士二萬を帥いて東關を出で，合州を以て**伯穆**に輸(おく)り，並せて咨議の**劉靈議**を遣わして二子の**勤**、**廣**を送りて東魏の質と為し以て師を乞わしむ。**范**は濡須に屯し以て上游之軍を待ち，世子の**嗣**を遣わして千餘人を將いて安樂柵を守らしめ，上遊の軍（続は諸軍）は皆な下らず，**范**は糧乏しく，菰稌(こもひえ)（まこも）、菱藕(ひしはすのね)（菱と蓮の実）を采り以て自給す。**勤**、**廣**は鄴に至り，東魏の人は竟に為に師を出さず。**范**の進退は計無く（進みては孤弱の軍で侯景を制御できず、退きては合肥は東魏に取られる），乃ち流れに溯（続は泝）りて西上し，樅陽（安徽省安慶道桐城県の東南、現・安慶市桐城市）に軍す。**景**は出でて姑孰に屯し，**范**の將の**裴之悌**は衆を以て之に降る。**之悌**は，**之高**之弟也。

【東魏高澄は寵臣に殺害され、高洋が継承】

東魏［暉業は曹・馬之書を読まず］東魏の大將軍の**澄**は鄴に詣り，爵位殊禮を辭し，且つ**太子**を立てんと請う。**澄**は濟陰王の**暉業**に謂って曰く、

「比(このごろ)何の書を讀むや？」

暉業は曰く、

「數々**伊**、**霍**之傳（伊尹・霍光は少主を補佐）を尋ね，**曹**、**馬**之書（曹操・司馬懿は簒奪）を讀まず。」

■**八月**，甲申（20−20+1=１日）朔，**侯景**は其の中軍都督の**侯子鑒**等を遣わして吳興を撃たしむ。

■［鮑泉は長沙を囲む］己亥(35−20+1=１６日)，**鮑泉**は石槨寺に軍し，河東王の**譽**は逆え戰い而して敗れる。辛丑（37−20+1=１８日），又た橘洲（長沙の西南 40 里、湘江の中に四洲あり）に於いて敗れる，戰い及び溺死する者は萬餘人。**譽**は退きて長沙を保ち，**泉**は軍を引きて之を圍む。

東魏辛卯（27-20+1=８日），東魏は皇子の**長仁**を立てて**太子**と為す。

東魏［高洋は常に高澄に譲る］勃海の文襄王の**高澄**は其の弟の太原公の**洋**が次長なるを以て，意は常に之を忌む。**洋**は深く自ら晦匿し，言は口を出ず，常に自ら貶退し，**澄**の言うに，順従せざるは無し。**澄**は之を軽んじ，常に曰く、

「此の人も亦た富貴を得，相書（人の骨法状貌を視して吉凶貴賤を知るの書）亦た何ぞ解す可けんや！」

洋は其の夫人の趙郡の**李氏**の為に服玩を営み小しく佳なれば，**澄**は輒ち奪いて之を取る。夫人は或は恚（いか）りて未だ與えざれば，**洋**は笑いて曰く、

「此の物は猶ほ應に求む可からず，兄の須（もとめ）は何ぞ吝惜す可けんや！」

澄は或は愧じて取らざれば，**洋**は即ち之を受け，亦た飾譲する無し。朝を退き第に還る毎に，輒ち閤を閉じて靜坐し，妻子に對すと雖も，能く竟日言わず。或は時に袒跣して奔躍し，夫人は其の故を問い，**洋**は曰く、

「爾か為にすは漫戯なり。」**(9-238p)**

其の實は蓋し勞に習わんと欲する也。

東魏［高澄は蘭京に殺され、高洋は収拾］澄は徐州刺史の**蘭欽**（梁の徐州刺史）の子の**京**を獲，以て臕奴と為す，**欽**は之を贖わんと請い，許さず。**京**は屢々自ら訴え，**澄**は之を杖ちて，曰く、

「更に訴えれば，當に汝を殺すべし！」

京は其の黨の六人と亂を作らんと謀る。**澄**は鄴に在り，北城の東柏堂に居り，**琅邪公主**（159 巻大同 11 年）を嬖し，其の往來すること間無からんことを欲し，侍衛者は常に遣りて外に出でしむ。辛卯（27-20+1=８日），**澄**は散騎常侍の**陳元康**、吏部尚書の侍中の**楊愔**、黄門侍郎の**崔季舒**と左右を屏け，魏の禪を受けるを謀り，百官を署擬する。**蘭京**は食を進め，**澄**は之を卻け，諸人に謂って曰く、

「昨夜夢にて此の奴が我を斫れり，當に急に之を殺すべし。」

京は之を聞き，刀を盤下に置き，

「食を進む」

と冒言す。**澄**は怒りて曰く、

「我は未だ食を索めず，何為れぞ遽（にわか）に來たるや！」

京は刀を揮（ふる）いて曰く、

「來たりて汝を殺す！」

澄は自ら投じて足を傷つけ，床下に入る，賊は床を去りて，之を弑す。**愔**は狼狽して走り出で，一靴を遺す。**季舒**は廁中に匿れる。**元康**は身を以て**澄**を蔽い，賊と刀を爭いて傷を被り，腸出る。庫直の**王紘**は刃を冒して賊を御（ふせ）ぐ。**紇奚捨樂**は斗いて死す。時に變は倉猝に起き，內外は震駭す。太原公の**洋**は城東の雙堂に在り，之を聞き，神色變わらず，指揮部分し，入りて群賊を討ち，斬り而して之を轔（れん）（切り刻む）し，徐（おもむろ）に出で，言って曰く、

「奴は反し，大將軍は傷を被る，大苦無き也。」

內外は驚異せざるは莫し（高洋が隠したので返って驚く）。**洋**は秘して喪を發せず。**陳元康**は（重症ながら）手づから書して母に辭し，口占（口授）して功曹參軍の**祖珽**をして書を作らしめ便宜を陳じ，夜に至り而して卒す。**洋**は之を第中に殯し，詐りて、

「出でて使いす」

と雲い，虚しく（元康の死も秘すにて、人情按ずる）**元康**を中書令に除す。**王紘**を以て領左右都督と為す。**紘**は，

基（王基は 156 巻中大通六年にあり）之子也。

東魏［唐邕は事態収拾に活躍］勳貴（東魏の軍事的主力豪族）は重兵が皆な并州に在るを以て，**洋**に勸めて早く晉陽に如かしめ，**洋**は之に從う。夜，大將軍の督護の太原の**唐邕**を召し，將士を部分し，四方を鎮遏せ使む。**邕**は支配（手配）すること須臾に而して畢わり，**洋**は是に由りて之を重んず。

東魏［高洋は皇室を威圧し、晉陽を制圧す］癸巳（29-20+1=１０日），**洋**は**東魏主**に諷し**太子**を立てるを以て大赦（蘭京の党を安心させるため）せしむ。**澄**の死問は漸く露われ，**東魏主**は竊に左右に謂って曰く、

「大將軍は今死す，是れ天意に似たり，威權は當に復た帝室に歸すべし矣！」

洋は太尉の**高岳**、太保の**高隆之**、開府儀同三司の**司馬子如**、侍中の**楊愔**を留めて鄴を守らしめ，餘の勳貴は皆な自ら隨う。甲午（30-20+1=１１日），入りて**東魏主**に昭陽殿に於いて謁し，甲士八千人を從え，階に登る者は二百餘人，皆な袂を攘いて刃を扣き，嚴敵に對するが如し。主者（朝儀を主る）をして傳奏せ令めて曰く、

「臣は家事有り，須く晉陽に詣るべし。」

再拜し而して出でる。**東魏主**は色を失い，之を目送して曰く、

「此の人は又た相い容れざるに似たり，**朕**は死すること何れの日に在るを知らず！」

晉陽の舊臣宿將は素より**洋**を輕んじる。至るに及び，大いに文武を會し，**(9-239p)**神彩英暢，言辭敏洽なり，衆は皆な大いに驚く。**澄**の政令は便ぜざる者有り，**洋**は皆な之を改める。**高隆之**、**司馬子如**等は度支尚書の**崔暹**を惡み，**暹**及び**崔季舒**の過惡を奏し，鞭は二百，邊に徙す（左遷）。

■［侯景は開府儀同の乱発］**侯景**は**宋子仙**を以て司徒と為し、**郭元建**を尚書左僕射と為し，領軍の**任約**等四十人と並せて開府儀同三司とし，仍って詔す、

「今より開府儀同は須く更に將軍を加えるべからず。」

是の後、開府儀同は多くして，復た記す可からざるに至る矣。

■鄱陽王の**范**は樅陽より信を遣わし、江州刺史の尋陽王の**大心**に告げ，**大心**は信を遣わして之を邀える。**范**は兵を引いて江州に詣り，**大心**は湓城を以て之を處く。

■［侯景は張嵊を生かせず］吳興の兵力は寡弱なり，**張嵊**は書生にして，軍旅を閒（続は閑）せず。或は**嵊**に勸める、

「**袁君正**に效(いた)いて郡を以て**侯子鑒**を迎えよ。」

嵊は歎じて曰く、

「**袁氏**は世々忠貞を濟す，意(おも)わず、**君正**は一旦之を隳(おと)す。吾は豈に吳郡の既に沒し，吳興の勢いは久しく全くす難きを知らざるや。但だ身を以て國に許し，死有りて貳無からん耳！」

九月，癸丑（49-49+1=１日）朔，**子鑒**の軍は吳興に至り，**嵊**は戰いて敗れ，府に還り，服を整えて安坐し，**子鑒**は執りて建康に送る。**侯景**は其の節を守るを嘉とし，之を活かさんと欲す，**嵊**は曰く、

「吾は忝くも專城に任じ，朝廷は傾き危うきに，匡復する能わず，今日速に死するを幸いと為す！」

景は猶ほ其の一子を存せんと欲し，**嵊**は曰く、

「吾が一門は已に鬼錄に在り，爾虜(なんじ)に就きて恩を求めず！」

景は怒り，盡く之を殺す。並せて**沈浚**を殺す。

【蕭繹と察の対立、西魏の介入】

■［蕭繹は獄中の王僧辯に策を問い許す］河東王の**譽**は急を岳陽王の**察**に告げ，**察**は咨議參軍の濟陽の**蔡大寶**を留めて襄陽を守らしめ，衆二萬、騎二千を帥いて江陵を伐ち以て湘州を救う。湘東王の**繹**は大いに懼れ，左右を遣わし獄中に就きて計を**王僧辯**に問い，**僧辯**は具に方略を陳じ，**繹**は乃ち之を赦し，以て城中都督と為す。乙卯（51-49+1=３日），**察**は江陵に至り，十三營を作り以て之を攻める。會々大雨ふり，平地は水深四尺，**察**の軍は氣沮む。**繹**は新興（漢の獻帝建安 12 年に雲中・定襄・五原・朔方の四郡を省き、郡毎に一県を立て、合わせて新興郡と為し、幷州に属す。晉の江左、荊州の界に僑立し、定襄・侯牧等の県を領す）太守の**杜崱**（しょく）と舊有り，密に之を邀える。乙丑（1+60-49+1=１３日），**崱**は兄の**岌**、**岸**、弟の**幼安**、兄の子の**龕**と各々所部を帥いて**繹**に降る。**岸**は五百騎を以て襄陽を襲わんと請い，晝夜兼行し，襄陽を去ること三十里，城中は之を覺り，**蔡大寶**は**察**の母の**龔保林**（漢以来に保林とは宮中の女官、齊の高帝建元三年に太子宮に三内職を置く。良娣は開国侯に比し、保林は五等侯に比し、才人は附馬都尉に比す）を奉じて登城して拒ぎ戰う。**察**は之を聞き，夜遁げ，糧食、金帛、鎧仗を漣水に棄て，勝げて紀す可からず。**張纘**は足を病み，**察**は載せて以て軍に隨う。敗走するに及び，守者は追兵の及ぶ所と為るを恐れ，之を殺し，屍を棄て而して去る。**察**は襄陽に至り，**岸**は廣平（晉は江南に渡り、廣平郡を襄陽に僑立す・宋は漢の南陽郡の朝陽県を以て実土と為す、河南省汝陽道鄧県の東南、現・南陽市鄧州市）に奔り，其の兄の南陽太守の**獻**（山冠の文字）に依る。**(9-240p)**

■［蕭繹は鮑泉の淹緩之罪を問う］湘東王の**繹**は**鮑泉**の長沙を圍みて久しく克たざるを以て，之を怒り，平南將軍の**王僧辯**を以て代わりて都督と為し，**泉**の十罪を數え，舍人の**羅重歡**に命じて**僧辯**と偕に行かしむ。**泉**は**僧辯**の來たるを聞き，愕然として曰く、

「**王竟陵**來たりて我を助けるを得れば，賊は平らぐるに足らず。」

席を拂いて之を待つ。**僧辯**は入り，**泉**に背き而して坐し，曰く、

「鮑郎，卿は罪有り，令旨（時に繹は所部に下すに令と称す）我をして卿を鎖（つな）が使む，卿は故（もと）の意を以て期せられる勿かれ。」

重歡をして令を宣べ使め，之を床側に鎖ぐ。**泉**は啟を為りて自ら申べ，且つ淹緩之罪を謝し，**繹**は怒り解け，遂に之を釋す。

東魏**冬，十月**，癸未（19-19+1=１日）朔，東魏は開府儀同三司の**潘相樂**を以て司空と為す。

■［蕭大心は歷陽太守の莊鐵の叛乱鎮圧］初め，歷陽太守の**莊鐵**は衆を帥いて尋陽王の**大心**に歸し（161 巻太清三年にあり），**大心**は以て豫章内史と為す。**鐵**は郡に至り即ち叛し，觀寧侯の**永**を推して主と為す。**永**は，**范**之弟也。丁酉（33-19+1=１５日），**鐵**は兵を引いて尋陽を襲い，**大心**は其の將の**徐嗣徽**を遣わして逆え擊ち，之を破る。鐵は走り，建昌（漢の和帝が永元 16 年に海昏を分けて置く県、豫章郡に属す、江西省澦陽道永修県、現・九江市永修県）に至り，光遠將軍の**韋構**は邀えて之を擊ち，**鐵**は其の母弟妻子を失い，單騎にして南昌に還り，**大心**は構を遣わして兵を將いて追いて之を討つ。

■**宋子仙**は吳郡より錢塘に趣く。**劉神茂**は吳興より富陽に趣き，前武州刺史の富陽の**孫國恩**は城を以て之に降る。

■**十一月**，乙卯（51-48+1=４日），**武皇帝**を修陵に葬り，廟號を**高祖**とす。

■百済［百済使者は建康の荒廃を哭し、侯景は拘束］百濟は遣使して入貢し，城闕の荒圮（荒れ破る）して，向に來たるより異なるを見，端門（建康台城の南小門）に哭す。**侯景**は怒り，莊嚴寺（建康の南郊壇に近し）に錄（拘束収容）送し，出でるを聽さず。

■壬戌（58-48+1=１１日），**宋子仙**は急に錢塘を攻め，**戴僧逖**は之に降る。

■［岳陽王の察は杜岸を惨殺］岳陽王の**察**は將軍の**薛暉**をして廣平を攻め使め，之を抜き，**杜岸**を獲り，

襄陽に送る。**察**は其の舌を抜き，其の面を鞭ち，支解し而して之を烹る。又た其の祖父の墓を發き，其の骸を焚き而して之を揚げ，其の頭を以て漆碗と為す（髑髏碗を作る）。

■●［荊州は各勢力の草刈場となる］**察**（続は詧）は既に湘東王の**繹**と敵と為り，自ら存する能わざるを恐れ，遣使して魏に援を求め，附庸（大国に附属する小国）と為らんと請う。丞相の**泰**は東閣祭酒の**榮權**をして襄陽に使いせ令む。**繹**は司州刺史の**柳仲禮**をして竟陵に鎮し、以て**察**を圖ら使め，**察**は懼れ，其の妃の**王氏**及び世子の**寮**(続では山冠に寮、察×)を遣わして魏に質と為す。丞相の**泰**は江、漢を經略せんと欲し，開府儀同三司の**楊忠**を以て三荊等十五州諸軍事を都督し，穰城に鎮せしむ。**仲禮**は安陸に至り，安陸太守の**沈勰**は城を以て之に降る。**仲禮**は長史の**馬岫**を留めて其の弟の子の**禮**と之を守らしめ，衆一萬を帥いて襄陽に趣き，**泰**は**楊忠**及び行台僕射の**長孫儉**を遣わして兵を將いて**仲禮**を擊たしめ以て**察**を救う。(9-241p)

【侯景の呉制圧と陳霸先の挙兵】

■［宋子仙會稽進出の波紋］**宋子仙**は勝ちに乘りて浙江を度り，會稽に至る。邵陵王の**綸**は錢塘の已に敗れるを聞き，出でて鄱陽に奔り，鄱陽内史の開建（県の名）侯の**蕃**は兵を以て拒み，**范**（綸に作るべし）は進みて**蕃**を擊ち，之を破る。

●［楊忠は義陽に至る］魏の**楊忠**は將に義陽に至らんとし，太守の**馬伯符**は下溠城（湖北省襄陽道棗陽県の東南百餘里、現・襄陽市棗陽）を以て之に降り，**忠**は**伯符**を以て鄉導と為す。**伯符**は，**岫**之子也。

■［蕭大連は留異に取られ、侯景は三呉を制す］南郡王の**大連**は東揚州刺史と為る。時に會稽は豐沃にして，勝兵は數萬，糧仗は山積し，東人（続は東土人）は**侯景**の殘虐に懲り，鹹な用を為すを樂しみ，而るに**大連**は朝夕酣飲し，軍事を恤えず。司馬の東陽の**留異**は，凶狡殘暴にして，衆の患うる所と為り，**大連**は悉く軍事を以て之に委ねる。**十二月**，庚寅（26-18+1=９日），**宋子仙**は會稽を攻め，**大連**は城を棄てて走り，**異**は奔りて鄉里に還り，尋ぎて其の衆を以て**子仙**に降る。**大連**は鄱陽に奔らんと欲し，**異**は**子仙**の鄉導と為り，追いて**大連**を信安（浙江省金華道衢県、現・衢州市衢江区）に及び，執りて建康に送り，**大連**は猶ほ醉い之を知らず。**帝**は之を聞き，帷に引いて自ら蔽い，袂を掩い而して泣く。是に於いて三吳は盡く**景**に沒し，公侯の會稽に在る者は，俱に南して嶺を度る。**景**は**留異**を以て東陽太守と為し，其の妻子を收めて質と為す。

東魏乙酉（21-18+1=４日），東魏は并州刺史の**彭樂**を以て司徒と為す。

■邵陵王の**綸**は進みて九江に至り，尋陽王の**大心**は江州を以て之に讓り，**綸**は受けず，兵を引いて西上す。

■［陳霸先は侯景討伐軍を編成、蕭繹の節度を受ける］始興太守の**陳霸先**は郡中の豪傑を結びて**侯景**を討たんと欲し，郡人の**侯安都**、**張人思**等は各々衆千餘人を帥いて之に歸す。**霸先**は主帥の**杜僧明**を遣わして二千人を將いて嶺（大庾嶺）上に頓せしむ，廣州刺史の**蕭勃**は人を遣わして之を止めて曰く、

「**侯景**の驍雄は，天下無敵なり，前者に援軍（柳仲禮など）十萬，士馬精強なれども，猶ほ克つ能わず，君は區區之衆を以て，將に何所くに之かんや！聞く如くならば嶺北（荊州雍州湘州）の王侯は又た皆な鼎沸し，親ら干戈を尋いると，君の疏外なるを以て，詎んぞ暗投（漢の鄒陽の書に、明月の珠、夜光の壁、暗を以て火とに道路に投ずれば、人は劒を按じて相眄ぜざる者無し、因無くして前に至ればなり）す可けんや！未だ若かず且く始興に留まり，遙に聲勢を張り，太山之安きを保たんには也。」

霸先は曰く、

「僕は國恩を荷ない，往に**侯景**の江を度るを聞き，即ち援に赴かんと欲し，**元**（元景仲）、**蘭**（蘭裕）が，我

の中道を梗(ふさ)ぐに遭値す。今京都は覆沒し，君は辱しめられ臣は死し，誰か敢えて命を愛(おし)まんや！君侯は體（蕭勃は武帝の従弟）は則ち皇枝にして，任は方岳に重し，僕は一軍を遣わすとも，猶ほ已むに賢(まさ)る乎（止めて軍を遣わさざるに勝る），乃ち更に之を止める乎！」

乃ち遣使して間道より江陵に詣り，湘東王の**繹**の節度を受けしむ。時に南康の土豪の**蔡路養**は兵を起こして郡に據る。**勃**は乃ち腹心の**譚世遠**を以て曲江（廣東省嶺南道曲江県、現・韶関市曲江区）令と為し (9-242p)，**路養**と相い結び，同じく**霸先**を遏(とど)めしむ。

●魏の**楊忠**は隨郡（湖北省江漢道随県、現・随州市随県）を抜き，太守の**桓和**を執る。

東魏［東魏は盡く淮南占領］東魏は金門公の**潘樂**等をして兵五萬を將いて司州を襲わ使め，刺史の**夏侯強**は之に降る。是に於いて東魏は盡く淮南之地を有す。

令和 5 年 4 月 5 日　　翻訳開始　11957 文字
令和 5 年 4 月 12 日　　翻訳終了　25033 文字